



## 総領事新年のご挨拶



在デトロイト日本国総領事  
中川 勉

JBSD会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年同様、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年1年、ミシガン州でのことを振り返りますと、6月の三笠宮彬子女王殿下のデトロイト美術館等のご訪問、8月の世耕経済産業大臣のミシガン州訪問、9月の三日月滋賀県知事のミシガン州訪問、ミシガン州・滋賀県姉妹州県連携50周年式典の開催等、多くの要人の方がミシガン州にお越しいただいた年でもありました。こうした機会において、JBSD及び会員企業の皆様方から様々なご支援、ご協力を賜りましたことにつき、改めて深く御礼申し上げます。

日本と米国の同盟関係は、両国首脳間の強力な信頼関係の下、かつてなく強固なものとなっています。こうした中、自動車・自動車関連産業を中心に日本の製造業が集中的に進出している米国中西部、特にここミシガン州は、今後、誰もが注目する、より一層重要な位置付けになっていくものと思われます。

ミシガン州では昨年11月の中間選挙において、新たに民主党のホイットマー知事が選出されました。日米の経済関係については、昨年9月の首脳会談での合意を踏まえ、今後、物品に関わる貿易交渉がスタートすることになります。昨年締結されたUSMCA（新NAFTA）も含め、JBSD会員企業の皆様のここミシガンでのビジネス環境にも少なからぬ影響があるかと思えます。

こうした中、私たちデトロイト総領事館といたしましては、第一に在留邦人の皆様方がより一層、安心かつ安全に当地に暮らし、また、仕事ができるよう、各種領事サービスの充実に努めるとともに、当地における皆様の経済活動が更に活発なものとなるよう、JBSD会員企業の皆様方から様々な機会を通じ、直接、かつ、できるだけ多くお話を聞かせていただき、それを米国側、さらには日本側の関係者にお伝えする役割も果たしていきたいと思っております。

日本では今年、平成から次の新しい時代に生まれ変わる節目を迎えます。更には、ラグビーのワールドカップ、来年にはいよいよ東京オリンピック、パラリンピックという大イベントも控えています。こうした新しい節目の年に、皆様とともに、ここミシガンの地で働けることをとても楽しみに思っております。

今年一年の皆様のご健勝とご多幸を心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

### 今月のViews

在デトロイト日本国総領事館提供によるトピックス ... 2	JBSD 基金グラント受賞団体特別エッセイ ..... 5	デトロイトりんご会補習授業校 講師募集中! ..... 8
リレー随筆: カンボジアでの経験から ..... 3	JBSD 基金 スカラシップ受賞者からのメッセージ .... 6	今後のJBSD 行事予定 ..... 8
経済・自動車セミナー報告 ..... 4	イベント情報 ..... 7	事務局長だより ..... 8
JBSD チーム対抗ボウリング大会 観戦記 ..... 4	編集委員の独り言 ..... 7	

## 在デトロイト日本国総領事館提供によるトピックスとお知らせ

### 平成30年秋の叙勲 片岡晃氏の旭日中綬章受章

平成30年11月3日（日本時間）、日本政府は、平成30年秋の叙勲受章者を発表し、この中で片岡晃氏が叙勲されることが公表されました。同氏は、日米経済関係促進功労及び在留邦人への福祉功労が認められ、本年、旭日中綬章を受章することとなりました。

片岡氏は、昭和46年にデトロイトに移住して以来、日本企業とアメリカ自動車企業（ビッグ・スリー）との初期の橋渡し役を務め、デンソーの産業基盤を米国

に移転させる上で非常に重要な役割を果たされました。平成9年に米国デンソーが設立されると、米国デンソーの初代会長を務められ、日米経済の関係促進に多大な貢献をされました。

さらに、ミシガン州の日本人駐在員数の増加に伴う、駐在員の子弟・子女への教育機会創出の必要性から、デトロイト日本語補習授業校の設立に尽力されました。また昭和48年には、デトロイト日本商工会の前身であるデトロイト日本人会

（JSD）の設立においても中心的役割を果たされ、昭和51年に第四代デトロイト日本人会会長を務められた後も、引き続き日本人コミュニティのため貢献されました。

**賞 賜：** 旭日中綬章

**功績概要：** 日米経済関係促進功労及び在留邦人への福祉功労

**主要経歴：** 元米国デンソー会長、元デトロイト日本人会会長

### 平成30年秋の叙勲 ジョン・クレイトン・キャンベル氏の旭日中綬章受章

平成30年11月3日（日本時間）、日本政府は、平成30年秋の外国人叙勲受章者を発表し、この中でジョン・クレイトン・キャンベル氏が叙勲されることが公表されました。同氏は、アメリカ合衆国における日本研究の発展及び対日理解の促進に寄与した功績が認められ、本年、旭日中綬章を受章することとなりました。

キャンベル氏は、外国人による初めての日本政府の政策決定過程研究として著名な「予算ぶんどりー日本型予算政治の研

究」をはじめ、政治学者として数多くの日本政治研究に関する著作、論文を残しておられます。

さらには、長年に渡り、日米両国の教育・研究者の育成に尽力され、ミシガン大学日本研究センター所長在職時には、時代を先見し、伝統的に文学・歴史分野といった分野が中心であった日本研究の領域を経営や科学技術の分野にまで拡大されました。日系企業コミュニティとも連携し、ミシガンの日本語補習授業校の円滑な運営維持にも関わる

など、日米の相互理解促進に多大な貢献をされました。

**賞 賜：** 旭日中綬章

**功績概要：** アメリカ合衆国における日本研究の発展及び対日理解の促進に寄与

**主要経歴：** ミシガン大学政治学科名誉教授、元ミシガン大学日本研究センター所長、元ミシガン大学政治学科教授

#### ■ お知らせ ■

Facebookで、当館の活動紹介のほか、日本関連情報やミシガン/オハイオ州の耳寄り情報も発信していますので、是非「いいね!」をお願い致します。

**Facebook ページ ▶**

[www.facebook.com/cgj.detroit](http://www.facebook.com/cgj.detroit)



在留邦人の皆様に有益と思われる情報や各種お知らせをメールでお送りするメールマガジンを配信していますので、是非ご登録ください。

**詳細はこちら ▶ [www.detroit.us.emb-japan.go.jp/jp/newsletter](http://www.detroit.us.emb-japan.go.jp/jp/newsletter)**

旅行や海外出張される場合は、是非「たびレジ」に登録を!!

旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。

**詳細はこちら ▶ [www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg](http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg)**

四半期毎にミシガン州とオハイオ州内の治安情勢を掲載しています。在留邦人の皆様が多く居住する地域における犯罪発生件数や最近の犯罪傾向などを掲載していますので、ご確認をお願い致します。

詳細は当館ホームページ、生活・安全情報内の「海外安全対策情報」をご確認ください。

**生活・安全情報 ▶ [www.detroit.us.emb-japan.go.jp/jp/life/safety.htm](http://www.detroit.us.emb-japan.go.jp/jp/life/safety.htm)**



## カンボジアでの経験から

国際交流基金 GEN-J 文化交流ファシリテーター

さわい みなえ  
澤井 美奈江

新年あけましておめでとうございます。  
2020年の東京五輪まであと1年、亥年の  
2019年ですね。

初めまして。国際交流基金より派遣  
され、デトロイト日本商工会<sup>1</sup>にて勤務を  
している澤井美奈江と申します。GEN-J  
(Grassroots Exchange Network-Japan  
「グラスルーツからの日米関係強化」)  
事業<sup>2</sup>に従事し、草の根レベルでの日米  
交流・ビジネス関連を含む連携強化の  
活動を展開します。活動期間は、2018年  
10月～2020年9月までです。以後どうぞ  
よろしくお願いいたします。

実は、前職では教育系NGOに勤務し、  
1年半ほどカンボジアに滞在しておりました。  
本題に入る前に、少しでも特徴を紹介  
します。何と言っても世界遺産のアン  
コール・ワットが有名です。教科書で見る  
以上に圧巻で、一見の価値あります。気候  
は、年中蒸し暑く、エアコンなどで電力を  
使い過ぎると停電もよく起こります。シャ  
ワーや料理中に停電になると困りまし  
たが、よく起こるので慣れていきました。  
衛生面の心配も水シャワーも平気になり、  
どんどん強く生きるタフさが身につく環  
境でした<sup>3</sup>。食に関して、カンボジアの料理  
(=クメール料理)は、マイルドでどこか懐  
かしさを感じさせ、日本人の口によく合  
います。カンボジア旅行記は程ほどに、今回  
は“異文化”に焦点を当ててお話ししたい  
と思います。

カンボジアにいた際、多くのカルチャー  
を体験しました。その中で印象的だった  
2つを紹介します。

① とにかく派手好き。冠婚葬祭は、  
大音量のスピーカーで爆音の音楽&

ダンスがお決まりで  
すし、お坊さんの読経  
さえもスピーカー(大)  
で流します。しかも朝  
5時頃の早朝スタート。  
強制目覚ましです。  
結婚式の招待客は、  
ゆうに300～400名  
を超えます。女性の  
ドレスアップ&メイクアップもゴージャ  
スで、気合いが入っています。普段  
あまり化粧をしない女性が多いので、  
ビフォーアフターが違い過ぎて何度も  
度肝を抜かれました。旧正月時の水  
のかけ合いも、ホースやバケツを使っ  
ての凄まじい盛り上がりです。(かけ  
られすぎてトラウマです) アジアの  
カルチャーとして、「お祭りごとは派  
手に」が文化として続いているよう  
です。

② 家族・親戚のつながりが強い。国内  
の一部や農村部には仕事が少ない  
ため、父親・母親が出稼ぎに出て、  
家を離れて家族へ仕送り。子ども達  
は親戚・祖父母が面倒を見て、家族  
全員が集まれるのは、年に2度。旧正  
月とお盆の時だけ、という家庭も多  
くいます。そんな生活を当たり前の  
ように送っていた友人に「家族離れ  
離れで寂しくないの？」と軽々しく  
聞いてしまったことがあります。その  
答えが胸に突き刺さりました。「カン  
ボジアの夫婦や家族だって、誰も離  
れ離れで平気な訳じゃない。けれど、  
他に選択肢がないから、それを受け  
入れて生きていくしかない。」自身の  
気遣いに欠けた質問を恥じると共に、  
何て遅いんだろうと感じました。  
環境に合わせて現実を受け入れ、家族  
親戚で一致団結して過ごす彼らを心  
から尊敬します。



ミャンマー事務所スタッフの研修時

どうしても比較してしまうのが人間で、  
「日本に生まれてよかった。自分は恵ま  
れている」と安心して終わりにになりが  
ちです。その環境にいないため当然です。  
そんな中私は、異文化を知り、その後自  
分がどう動くか、に焦点を当てた「異文化  
理解教育」に関わろうと決意しました。

本事業でこちらに来られたのも、日本  
と米国間の「異文化理解」を深めるのに  
最適で、大きな可能性を感じています。  
1つ、何より大切なことは、今後の日米  
交流の架け橋になるキーパーソンを見つ  
け出し、協力し、よりよい関係・交流を  
継続させていくことです。少々形にする  
のが難しいミッションですが、異文化が  
創り出す新たな可能性に懸け、出来るこ  
とに出来るだけ尽力いたします。皆さまの  
温かいお力添えをいただければ幸いです。

## おまけ

カンボジアで1番有名な日本のCMで、  
味の素があります。カンボジア人に「味の  
素！」と言うと、ほぼ100%「はい！」と  
返ってくると思います。機会があれば  
ぜひお試しを。

<sup>1</sup> Japan Business Society of Detroit<sup>2</sup> 国際交流基金日米センターと米国非営利団体ローラシアン  
協会が協同実施<sup>3</sup> 本文では、インフラの整っていない農村地域の環境を指す

\*GEN-J事業のInstagram始めました。  
ご興味があればフォローお願いします！

@genj.michigan



## JBSD イベント報告

商工部会・みずほ銀行共催

### 経済・自動車セミナー報告

昨年11月8日、みずほ銀行のご協力を得てJBSD商工部会との共催セミナーを開催しました。

セミナーは2部構成で、それぞれの講師と講演項目は次の通りです。

#### 第1部:

##### 中間選挙後のトランプ政権と米国経済の行方

講師: 新形 敦氏

みずほ総合研究所調査本部ニューヨーク事務所長

1. 中間選挙後のトランプ政権
2. 米国経済の現状
3. 2019年の展望(経済、金融市場)

#### 第2部:

##### ドライバーレスカー時代の自動車産業 ～競争機軸の変化への対応は如何に～

講師: 前田 奏氏

みずほ銀行産業調査部自動車・機械チーム調査役

##### 第1章: ドライバーレスカー時代に向けた 自動車部品サプライヤーの針路

- ・自動運転技術の進化と定義

- ・完成車メーカーの自動運転投入計画
- ・トヨタの自動運転への取り組み
- ・ロボットタクシー実用化に向けた進展
- ・ドライバーレスカーがもたらす3つの変化

- ① 機械が「認知・判断・操作」を代替する
  - 「走る・曲がる・止まる」という自動運転の基本機能は不変
  - 「認知・判断・操作」を代替する自動運転システムは付加機能

- ② 人が運転しなくなることで、自動車に求められる役割が「便利で快適な移動手段」にシフト

- 自動車の差別化の中心が、ドライバビリティから居住性などのUser Experience (UX) ヘシフト

- ③ 自動車の移動コストが劇的に低下することで、自動車の「共用化・共有化」が進展

- 車両単価の上昇が許容(台当たりのコスト負担から、移動時間当たりのコスト負担へ)
- 自動車の汎用化・標準化が進展し、基本機能にかかる部品は汎用化

##### 第2章: MaaSと完成車メーカーの ビジネスモデル

- ・モビリティサービス企業の台頭
- ・Uberと主なライドシェア企業の概要



- ・Uberのライドシェアサービスの仕組みと実現する効果
- ・Uberのサービスのマッピング(弊行仮説)
- ・Uberの業績動向
- ・Uberは黒字化出来るのか
- ・Uberの自動運転開発状況
- ・完全自動運転車導入とUberの事業モデル
- ・Dimler・BMWのカーシェア事業の概要
- ・Dimler・BMWのモビリティサービス事業統合の狙いと今後
- ・Grabの決済サービス: GrabPay
- ・GrabのFinTech及びデータ活用にかかる取り組み
- ・MaaS時代に完成車メーカーが目指すべき方向性

#### 本セミナーに関するお問い合わせ先:

伊藤 琢也 (Takuya Ito)

Tel: 312-855-8360

E-mail: takuya.ito@mizuhocbus.com

スポーツ部会主催

### JBSDチーム対抗ボウリング大会 観戦記

恒例のJBSDチーム対抗ボウリング大会が、11月11日(日)にNoviのNovi Bowl Family Fun Centerにて開催されました。32チーム、148名にご参加いただき、大変盛り上がりしました。

当日は、良い天候にも恵まれ、皆様のご協力により予定通り開始することができました。ゲームが始まると、皆様思い思いに楽しまれ、お知り合いの方々のスコアを気にされたり、日ごろの練習の成果を思い切りぶつけたりと、楽しいひと時を過ごされていました。ゲーム方式は各チームの上位3名のスコア×2ゲームの合計を競うもので、9歳以下のお子様、12歳以下のお子様、女性の参加者に、それぞれハンディキャップを設けております。

今回、見事優勝の栄冠を手にしたのは、1,142点を獲得されたYoko'sの皆様でした。おめでとうございます。上位4チームの得点は1,000点を超え、優勝争いはとてもハイレベルな戦いとなり、観ている人々を魅了するものでした。

ご参加いただいた皆様、大会の進行にご協力賜りまして誠にありがとうございました。次回の開催は、2019年2月を予定しております。次回もどうぞ皆様お誘い合わせの上、奮ってご参加いただきますよう、幹事一同お待ちしております。(JBSDボウリング大会事務局: 古賀)



優勝おめでとうございます!

JBSD 基金グラント受賞団体: ミシガン大学家庭医学科 – 特別エッセイ

## 日本医療研修プログラムを終えて

会員の皆さまからのご寄付の一部はJBSD 基金を通し地元の教育関連団体への助成金としても還元されています。ミシガン大学家庭医学科では、様々な文化背景において有効なケアを提供するメディカルリーダーの育成を目指し、日本の医療を学び情報を共有する目的で学生アンバサダーとして医学生/研修医を日本へ送るプログラムを行っています。この度、JBSD 基金を通して行われた同プログラムを終えたAnne Phan-Huyさんが精神医学の観点から、両国の認識や医療の差異について書かれたエッセイを紹介します。

### Reflections on Mental Health, Stigma and Cultural Change in Japan

Anne Phan-Huy

I came to Japan through the Japanese Family Medicine Program hoping to learn more about mental health in a different cultural setting than my own. Especially in Japan where the pull of tradition and social responsibilities is particularly strong, I was interested in how culture impacts the way institutions and individuals seek to support mental wellbeing. Though I was only exposed to family medicine practice in Japan, many of the patients in clinic were also being seen by psychiatrists or on multiple psychoactive medications. Some patients came to their family doctors just to seek counseling. Everywhere I asked, mental illness was recognized as a concerning issue in Japan, especially in light of rising rates of suicide. However, in my experience as a foreigner probing into local perceptions about mental health, I received ambivalent responses on how to define mental illness. On one hand, the widespread use of antidepressants and benzodiazepines for depression and anxiety suggest an overarching belief by the medical community that mental illness is rooted in biological dysfunction. Possibly as a consequence of this, physicians rarely recommended psychotherapy. Yet among family physicians, the human need for social support for overall wellbeing was readily accepted and incorporated into patient interaction. I witnessed many family physicians devote a large percentage of their time with patients addressing social and emotional concerns of patients and caregivers.

Another common perception I encountered was that psychological issues arose from a disordered social environment. This often came along with the idea that depression was more of a façade to mask an individual's inability to cope with social distress or a reflection of their nervous personality. I observed that benzodiazepines was often first line medication for patients defined as “nervous” by their providers. This idea of mental illness as a personality flaw was echoed in my conversations with Japanese locals who confided in me about

the burden that social expectations can put on individual fulfillment, but would then ask me, “Do you think depression is a real thing?” With an increasing public awareness of mental illness as a social problem facing Japan, there is a concurrent lack of clarity about where to draw the line between mental pathology and basic emotional turmoil. So when mental health treatment lies in the domain of either psychopharmacological intervention or within the confines of the family, it is unclear where to go for help.

Perhaps the disconnect between the medical notion of mental illness and more generally held cultural ideas of mental imbalance as a reflection of a defect in personality or society in general is counterproductive to the ability of the healthcare system to adequately address mental health needs of the population. Thus far, national campaigns to raise awareness about mental illness seem to have done little to reduce stigma. In my anecdotal experience, education about mental illness has been unable to reconcile the biomedical with the social components that contribute to it leading to poor public understanding. When faced with the decision about where seek help for mental illness, electing for professional help normally entails medication. For those that struggle with facing stigmatization, have a medical diagnosis and treatment may be a way to legitimize their suffering and escape personal responsibility for breaking behavioral norms. For others, however, the medical community's preference for the medicalization of mental illness is at odds with culture. I have been told that, in general, Japanese society is mistrustful of biomedicine, which is often felt to be too potent for the Japanese constitution. For those with mental health concerns that do not necessitate pharmacological treatment, there is poor access to alternative treatments such as counseling or psychotherapy. The system thus excludes a large population from seeking professional mental health services based on cultural attitudes.

Now that popular media has made talking about mental illness less taboo, perhaps it is worthwhile to investigate ways to diversify the types of treatment options available to people. The integration of mental health and primary health care may be a good place to start. My



experience has showed me that counseling is already an important feature in family medical practice. Family practice doctors in Japan often see patients in their home and have the opportunity to see patients over their lifetime. As mental illness is often seen as something that needs to be managed within the family and is often expressed in terms of somatic complaints, the family doctor's proximity to patients' home lives may facilitate communication about mental health treatment. Primary care providers are well positioned to identify patients with mental health issues, shape understanding of mental illness, and help them navigate social, medical and psychological components of treatment. Thus far even basic mental health screening is not a regular feature in primary care settings in Japan. Doctors seem to be limited by the time constraints of seeing a high volume of patients, and also a lack of training in management for mood disorders that involve both medication and psychotherapy. While psychotherapy exists in Japan, it is usually only available in the private sector with large variations in quality and commitment to evidence-based approaches.

People tend to comment on the internalizing tendency of Japanese society as a reason why mental illness has become such a severe issue, but I think that the value placed on social support for the maintenance of community and individual wellbeing is an aspect that psychiatry and primary care in Japan can build upon. I had the opportunity of meeting several new medical residents during my rotation in Nagoya's Minamiseikyo Hospital who told me that the popularity of psychiatry as a specialty choice is growing as a response to recent public outcries against social conditions contributing to Japan's mental health problem. One of the first year psychiatry residents I spoke to had switched career paths from civil engineering to psychiatry after his experience volunteering to help victims of the series of natural disasters that hit Japan in 2011. His experience witnessing the psychological trauma inflicted by the events and the value of social support to survivors motivated his drastic career change late in his life. He is an example of how the discourse surrounding mental illness in Japan may be shifting to mental wellness as a social responsibility and moreover can be supported by the medical community.

## JBSD基金 スカラシップ受賞者からのメッセージ

JBSD 基金のスカラシップを受けJCMUを通し日本留学を終えた学生たちよりお礼のメッセージを頂きました

Dear Japan Business Society of Detroit Foundation Members,

My name is Dominic Thelen. I am a recipient of the 2017-2018 Academic Year Language and Culture Program Scholarship. I would like to thank you so much for the scholarship and to share some of my experience that the scholarship allowed me to have.

Due to your generosity and your great generosity of the scholarship that you awarded me I was able to not just study the Japanese language and culture at Japan Center for Michigan Universities, but have experiences during my time that have changed my life and forever impact how I think about not just Japan and myself, but the world as a whole.

During my time at JCMU I have made a ton of very close friends that I would have never had the opportunity to meet if I only attended Michigan State University. While most of them are American I have made a small group of very close Japanese friends that have taught me more about Japanese language and culture than I would not have learned in class. For example, they have taught me some Kansai-ben, which is not something you learn in classes. They have also taught me new vocabulary and different and more natural uses for the vocabulary that I already learned. They helped me prepare for presentations and essays. I could not ask for a better group of friends. These friends will always be with me and we have formed a bond that will last a life time.

With these friends I have had cultural experiences that are strictly Japanese and will forever remember. Over the year we went to Universal Studios Japan, famous onsen in Arashiyama, saw waterfalls, made homemade takoyaki, went to concerts, and went flower viewing (hanami).

By awarding me this scholarship you have re-sparked my longing to learn the Japanese language in a whole new way. I cannot thank you enough for the great experience you allowed me to have due to your generosity.

Sincerely,

Dominic Thelen



### JBSD Foundation Thank You

I was awarded the semester scholarship from JBSD to help assist me with the financial costs that comes with studying abroad. Thanks to the JBSD scholarship, I was able to fulfill one of my long-time dreams of going to Japan to study. With the money I received from the scholarship, I no longer had to take out any student loans and I was able to use all of the cash I saved up for enjoyable things, such as traveling and food. This letter is written with the purpose of thanking the Japan Business Society of Detroit, while also sharing the experiences that I was able to obtain thanks to the scholarship I received.

During my time in Japan, I was able to experience a new culture for the first time in my life. The amount of deep connections I was able to make will be what I look back at as the greatest present from this adventure. The number of friends I have made is countless. Every person I met taught me something, whether it was a lesson in life or they just taught me something to help me with my studies of Japanese. Even though I have returned to America, I still keep in contact with many of the friends I made in Japan.

The JBSD Foundation scholarship is what made it possible for me to have such an enjoyable time while not worrying about finances. I will forever be grateful for the experiences that I was allowed to have because of the JBSD. I came back a different person with a different outlook on the world and life. Studying abroad was an opportunity for me to discover myself and what I really want to do for the rest of my life. I have JBSD to thank for that.

Travis Coppernoll







注: 掲載のイベント情報に関しては、内容が変更される場合がありますので、必ずイベント主催者に確認して下さい。  
また、掲載している内容に関し、いかなるトラブルが生じていても、JBSDは一切責任を負いませんので予めご了承下さい。

## 特別イベント

### フィッシングショー

#### The Ultimate Fishing Show

Suburban Collection Showplace, Novi

1月10日(木)–13日(日)

木: 1:00pm–9:00pm

金: 11:00am–9:00pm

土: 10:00am–8:00pm

日: 10:00am–5:00pm

料金: 大人 \$12  
子ども \$5 (6–14歳)  
5歳以下無料

問い合わせ: 800-328-6550

www.showspan.com/ufd

全米最大の淡水フィッシング市場ミシガン。フィッシングに必要なすべての道具、ボート、サービス、情報が集まる。

### 2019年北米国際オートショー

#### North American International Auto Show 2019

Cobo Center, Detroit

1月12日(土)–27日(日)

料金: 一般大人 \$14 (E-ticketあり)  
シニア (65歳以上)・子ども (7–12歳) \$7 (※当日券のみ)  
6歳以下無料

※ 一般は1月19日(土)から27日(日)  
9:00am–10:00pm (9:00pm以降入場不可)・

1月27日(日) 9:00am–7:00pm

(6:00pm以降入場不可)

問い合わせ: 248-643-0250

www.naias.com

毎年恒例の全米最大デトロイト・オートショー。各自動車メーカーの最新動向を知ることができる。

### アナーバー・レストラン・ウィーク

#### Ann Arbor Restaurant Week

Downtown Ann Arbor

1月13日(日)–18日(金)

料金: ランチ \$15・ディナー \$28



http://annarborrestaurantweek.com

アナーバーのダウントOWNにある多くのレストランでこの期間、2 for 1として、上記のディスカウント料金で、2皿分を選んで楽しむことができる。参加しているレストラン詳細はウェブサイトにあるので予約は早めに。

### ロイヤルオークビール祭

#### Royal Oak Beer Fest (Polar Beer Fest)

Royal Oak Farmers Market, Royal Oak

1月19日(土) 7:30pm–10:30pm

料金: \$45・\$65 (VIP)

http://royaloakbeerfest.com

50箇所以上のブルワリーから100を超えるクラフトビールがロイヤルオークに集まる。

## ウィンターフェスティバル

### フランケンムース・ゼンダース・

#### スノーフェスティバル

#### Zehnder's Snowfest

Frankenmuth, MI

1月23日(水)–28日(月)

問い合わせ: 800-863-7999

www.zehnders.com

毎年恒例となっているこのフェスティバルでは、氷の彫刻のコンペが行われ、子どもたちの体験彫刻も。週末はボニーライドや生演奏などもあり。ゼンダースにはインドアプール、宿泊施設もあり家族で楽しめる。

### その他地区

#### Plymouth Ice Festival

1月11日(金)–13日(日)

#### Village of Rochester Hills –

#### Fire and Ice Festival

1月18日(金)–20日(日)



## 映画

### 万引き家族

#### Shoplifter

Detroit Film Theatre, Detroit

1月4日(金)–6日(日)・11日(金)–13日(日)

料金: 一般 \$9.50・シニア \$7.50

www.dia.org/events/shoplifters

2018年6月8日公開の日本映画。是枝裕和監督。第71回カンヌ国際映画祭最高賞パルムドール受賞作品。

## 今後の人気イベント

### Fox Theatre, Detroit

www.olympiaentertainment.com

- 2月23日 2Cellos
- 3月29日–31日 Rodgers + Hammerstein's Cinderella
- 4月13日・14日 Sound of Music

### Little Caesars Arena

- 1月18日–27日 2019 US Figure Skating Championship



## 編集委員の独り言

サンクスギビングに伴う連休を利用して、ペンシルベニア、ワシントンD.C.を旅行してきました。ペンシルベニアでは、行きと帰りでそれぞれバンクサトーニー、ピッツバーグに寄りました。バンクサトーニーはジェファーソン郡の南方に位置する人口6,000人程の小さな町ですが、毎年2月2日に「Groundhog Day」と呼ばれる天気占いをする行事があり、町の入り口には「Weather Capital of the World」とありました。

なぜこの小さな町を訪れたかという、1993年に製作されたビル・マーレイ主演の邦題「恋はデジャ・ブ」という映画が大好きで、その舞台となった町がバンクサトーニーだったからです。実際に気象予報士(笑)であるウッドチャックのフィルが登場する「Gobbler's Knob」に行ってきました。ただ後で知ったのですが、町が小さいため、映画のロケはシカゴ近郊でされたそうで、映画の中ででてきた建物等をみて楽しむことはできませんでした。次回は、そのロケ地を旅行したいと思います。 Y.A.

ミシガンの小学4.5年生のお子さんをお持ちの方へ 4.5年生はミシガンでのスキーリフト券が無料です!

## ミシガンの冬を楽しもう! COLD IS COOL! プログラム

Michigan Snowsports Industries Associationでは、スキーのおもしろさを知ってもらおう、寒い冬でも体を動かして楽しもうと毎年ミシガン在住の小学4年生、5年生の子ども達を対象にしたCold is Cool! プログラムを実施。これは、対象学年の希望者にSki & Rideパスポートを発行するもの(\$20)でこのパスポートがあれば参加する州内のスキー場でシーズンで最高3回分(各スキー場)のリフト券またはトレイルパスが無料になるという、スキーをより身近に、気軽に楽しんでもらおうというプログラム。(ただし、大人1名のリフト券購入要。大人1名につき対象学年の子ども2名まで使用可)小学4年生、5年生のお子さんをお持ちの方は、ぜひこのプログラムを利用してみてはいかがでしょうか。

詳細 MSIAウェブサイト: [www.goskimichigan.org](http://www.goskimichigan.org)





**Japan Business Society of Detroit**  
42400 Grand River Ave.  
Suite 202, Novi, MI 48375

## 家族で読むViews

### 今月のトピック

- 総領事新年のご挨拶 ..... 1
- リレー随筆: カンボジアでの経験から ..... 3
- JBSD チーム対抗ボウリング大会観戦記 ..... 4
- JBSD 基金グラント受賞団体代表特別エッセイ ... 5
- JBSD 基金スカラシップ受賞者からのメッセージ ... 6

## Views views@jbsd.org(編集部)

皆様からのご意見、ご感想をお待ちしていますので  
お気軽にお寄せ下さい。投稿も大歓迎です。

[www.jbsd.org](http://www.jbsd.org)でもViewsをご覧ください。

### 今後のJBSD 行事予定

## January<sup>1月</sup>

### JBSD 新年会

日 時: 1月27日(日) 12:30pm-4:00pm  
場 所: Suburban Collection Showplace  
参加対象: JBSD 法人会員社員・個人会員・  
ウィメンズクラブ・りんご会・  
それら会員家族と会員同伴者。  
※チャイルドケア無料



お申し込みについてはJBSD事務局ウェブサイト([jbsd.org](http://jbsd.org))をご確認ください

### 事務局長だより

会員の皆様、あけましておめでとうございます。

JBSDIは会員向けの各種イベントに加えて最も重要な対外的な活動として地元コミュニティとの相互理解と友好を深めることに力を注いでいますが、昨年も皆様のご支援のお陰により充実した内容で使命を果たすことができました。

具体的には、ミシガンの州立大学、高校で学び日本留学を希望する選ばれた学生に対する奨学金の授与、姉妹関係にある滋賀県とミシガン州に所在する家庭同士のホストファミリー交換プログラムによる夫々の高校生の交換留学に対するグラント供与など、長年に亘り継続してきた日本とミシガンの若者を繋ぐ活動を昨年も実施することができました。

また、大人向けのカテゴリーでは、20年近くに亘り毎年実施してきたIEJ (International Educator to Japan) プログラムへの支援を昨年も実施しました。このプログラムは、りんご会補習授業校に在籍する生徒が平日学んでいるアメリカの学校の先生方を日本に招聘し、日本の教育システムと日本文化を学んでいただくものです。具体的には、毎年5人の選抜されたアメリカ人の先生方が日本を訪れ、日本の教育者との意見交換、学校訪問、授業体験に加えて代表的な日本文化を体験し、りんご会のオープンハウスにおいてグループで体験報告を行っていただきます。その結果、毎年IEJプログラムへ多くの先生方に応募をいただいています。

会員各位の温かいご支那に對しまして改めてお礼申し上げますと共に、今年も更なる努力を重ねていきたいと思っておりますので本年も引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### デトロイトりんご会補習授業校 講師募集中!



デトロイトりんご会補習授業校では、明るく元気で子供大好き、やる気溢れる講師を募集しています。  
詳細は[www.jsd.org/teacherwanted](http://www.jsd.org/teacherwanted)をご覧ください。

※QRコード読み取り可能な携帯電話で左記コードを読み取ると  
りんご会ウェブサイトへジャンプします

